

## ◎景気ウォッチャー調査[2022年4月]

### 2022年4月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を4.3ポイント下回る48.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「青果の相場高及び値上げによる1品単価上昇により、既存店売上は前年実績を辛うじて維持しているが、1人当たりの買上点数が前年を下回っている。」(スーパー)、「ランチタイムの来客数は戻りつつあるが、酒類提供がメインではないレストランなのに、ディナータイムの減少が目立つ。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.4ポイント下回る49.8となった。

企業動向関連は、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「中国のロックダウンが2月下旬から継続されており、上海にある子会社の操業や中国国内の取引先への販売が停止している。」(電気機械器具製造業)、「4月に主要客の休業が3回、延べ8日となり、猛烈な受注量減少となっている。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を9.4ポイント下回る40.6となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの59.4となった。

	4月	3月	前月差
合計	48.9	53.2	-4.3
家計動向関連	49.8	53.2	-3.4
企業動向関連	40.6	50.0	-9.4
雇用関連(参考値)	59.4	59.4	0.0

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を4.4ポイント下回る47.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「交通費が値上げされ観光への影響が懸念される。」(一般小売店)、「住宅業界では金利上昇の局面を迎える可能性が高く、ニュースでも具体的な話になっている。資材高騰の状況下で金利上昇が住宅業界にとっては苦しい局面となる。」(住宅販売会社)等の理由から、「やや悪くなる」「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.1ポイント下回る48.1となった。

企業動向関連は、「良くなる」「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス感染症の収束が鈍化し、物価や資源価格の高騰、円安、物流停滞等の不安要素が多く、取引先の収支悪化が懸念される。」(金融業)、「原材料価格が上昇している影響で、建材や各種建築製品にまで値上げの通知が届いている。今後コストの見直し等もあり、民間工事の着工遅れにもつながる。」(設計事務所)、「電気代の値上げでデータセンターのコストが高騰し、価格転嫁の影響で買い控えが起こると予想される。半導体機器も不足しているため、販売量が停滞する。」(通信業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.1ポイント下回る39.8となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスに対して市場全体が慣れてきたため、各企業の新規採用活動が増える。また、新規事業展開を行う企業も増える。」(民間職業紹介機関)の理由から、「良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.6ポイント上回る59.4となった。

	4月	3月	前月差
合計	47.6	52.0	-4.4
家計動向関連	48.1	53.2	-5.1
企業動向関連	39.8	44.9	-5.1
雇用関連(参考値)	59.4	57.8	1.6